

健康科学大学と富士河口湖町との 地域連携活動について（平成27年度）

地域連携推進委員会

加藤 智也 坂本 宏史 佐藤 真一 成田 崇矢
灌口 綾中 村圭一 新井 雅

Collaborative activities of Health Science University with Fujikawaguchiko town in 2015

KATO Tomoya, SAKAMOTO Hiroshi, SATO Shin-ichi,
NARITA Takaya, TAKIGUCHI Aya, NAKAMURA Kei-ichi
and ARAI Masaru

抄 録

「健康科学大学と富士河口湖町との包括連携協定（平成22年3月24日締結、以下包括連携協定）」に関連して行われた本年度（平成27年度）の活動：本学教員が講師として地域住民に対して開いた「地域連携講座」、富士河口湖役場職員を講師として本学に招き開講された総合基礎科目「地域連携の理論と実際」、地元地域で健康科学大学生が行ったボランティア活動について報告した。

「包括連携協定」の目的の一つである「知的財産の共有」に関連して、本学教員が地域住民に対して「富士河口湖町・健康科学大学 地域連携講座」を開く一方、町役場の職員が講師として本学学生に対して授業「地域連携の理論と実際」を行った。「地域連携講座」は、第1～3回として11月15日（日）富士河口湖町町政祭の際に、第4回として3月13日（日）に中央公民館祭の際に開かれた。「地域連携の理論と実際」は前期4月～7月の毎週水曜日4時限に開講され、68名が受講した。

本学ボランティアセンターに登録している学生は、3学科合わせて、297名（平成27年10月1日現在）あり、富士河口湖町をはじめ、地元の要請に応じてボランティア活動に参加した。本学の地域連携推進委員会が関わる行事として恒例となっている富士河口湖町内の清掃活動「ウォーク・クリーニング隊」が5月24日（日）と10月24日（土）に行われ、それぞれ、56名、39名の学生ボランティアが参加した。

キーワード：地域連携、包括連携協定、ボランティアセンター、知的財産の共有

1) はじめに

平成27年5月当初に渡辺 凱保 富士河口湖町町長、荒木 力 健康科学大学(本学)副学長をはじめ、連携事業に関わる各部署の代表が出席し、第3回の「拡大地域連携推進委員会」が開かれた。健康科学大学と富士河口湖町との包括連携協定(平成22年3月24日締結、以下包括連携協定)に基づいて平成26年度に行われた活動の報告や、平成27年度の活動予定が確認された。本学の成田崇也 地域連携推進委員より、「想定される災害時における本学への連絡体制」について質問があり、早速に検討されることとなった。

この報告では、平成27年度に本学地域連携推進委員会が関わった活動をまとめ、前述した「包括連携協定」の目的に基づいて、到達度を総括した。

2) 富士河口湖町・健康科学大学地域連携講座

本事業は前述の「包括連携協定」を結ぶきっかけであり、平成27年度(本年度)で7年目を迎える。本年度は、昨年に引き続き、「健康」を共通のテーマとして全4回の講座を開催した(表1)。

第1～3回は、平成27年11月15日(日)富士河口湖町町制祭の際に、第4回は平成28年3月13日(日)に中央公民館祭の企画の一つとして、開催された。

表1 H27 健康科学大学・富士河口湖町 地域連携講座 日程

回	講座名	講師	日時	場所
1	あなたの身体を守る筋トレ講座 - サルコペニアの予防について	理学療法学科助教 藤田 大輔	11/15(日) 11:00～12:30	富士河口湖町 勝山ふれあいセンター
2	日常生活における認知症の予防	理学療法学科教授 金 信敬	11/15(日) 13:00～14:30	同上
3	みんなで考えるメンタルヘルス	福祉心理学科准教授 池谷 進	11/15(日) 14:40～16:10	同上
4	生活習慣病を予防する方法とは — 身体にとって良い運動、薬の飲み方を覚えよう —	理学療法学科助教 高木 大輔	平成28年 3/13(日) 10:00～11:30	富士河口湖町 中央公民館

3) 地域連携の理論と実際

4年前に開講した本講座は、本学に地域行政の専門家である富士河口湖町の職員を講師に招いて、「行政全般」、「福祉」、「文化」、「健康増進」などにかかわる町の取り組みや課題を紹介してもらうものである。「包括連携協定」が結ばれたことによって開講される大変特色のあるものである。昨年度から総合基礎科目の一つとなり、全学科の学生が広く受講できるようになった。今年度は4回の大学における講義(図1a)、富士河



図1 (1 a-d) は「地域連携の理論と実際」での、1a：講義風景、1b：農業試験場での農業体験、1c, d：学生による課題発表会の様子

口湖町農業試験場における農作業体験（図1b）を通して、特に興味をもった項目や課題について、グループ単位で町役場職員や担当教員の指導を受けながら調査・研究を行い、最終的に 研究発表会を行った（図1c,d）。今年度は、68名の受講者があった。

4) 学生のボランティア活動

平成23年に全学的なボランティアセンターが開設されてから、地域連携推進委員会がその運営に関わってきた。ボランティアセンターでは、できる限り優良なボランティアの依頼元を選んだり、傷害保険を紹介したり、学生に安全で不利益がないよう努めてきた。センターの主な業務として、当センターに登録する学生に、「ボランティアニュース」として、近隣地域の各種団体からのボランティアに関する情報を発信する一方で、ボランティア活動の大切さを伝えている。本年度297名の学生（理学療法学科：101名 作業療法学科：129名 福祉心理学科：67名 平成27年10月1日現在）が登録されており、それぞれが前述のボランティアニュースを基に活動に参加した（表1）。

表1 H27 ボランティア活動者数
(10月1日現在)

4月	0
5月	22
6月	35
7月	12
8月	19
9月	19



図2 (2a-d) は学生ボランティア活動、ウォーク・クリーニング隊の様子
2a, b: 5月に行われた、「1万人の清掃活動」での活動風景
2c, d: 「ぐるり富士山風景街道一周清掃2015」での活動風景

「包括連携協定」が締結されて以来、本学学生と富士河口湖町役場職員、富士河口湖町民有志「まちづくりワークショップ」を主体として毎年「ウォーク・クリーニング隊」として河口湖畔の清掃活動が行われている。本年度も、5月24日(日)と10月24日(土)に、それぞれ、「1万人の清掃活動」(富士河口湖町企画)、「ぐるり富士山風景街道一周清掃2015」(同実行委員会企画)に合わせて行われ、それぞれ56名、39名の学生ボランティアが参加した(図2)。

5) 富士河口湖ボランティアネットワーク協議会

平成22年度に発足した本協議会(構成:本学ボランティアセンター、富士河口湖町政策財政課、生涯学習課、社会福祉協議会、富士河口湖高校ボランティアサークル、河口湖畔教職員組合)は、本年度も月に一度、定例的に開催された。地域における、行政と大学、さらに小中学校の連携から生まれる利点や可能性について、情報や意見の交換を行っている。

6) 考察

富士河口湖町・健康科学大学地域連携講座

今年度は当講座を町のイベントに合わせて開催した。第1～3回は富士河口湖町の

町制祭〔11月15日（日）〕に、第4回は中央公民館祭〔3月13日（日）〕の企画の一つとして行われた。

昨年度と同様、本学の名称の一部でもある「健康」を大きなテーマとして、講師を本学教員から広く募った。講座を担当する教員が、それぞれの専門性に応じて細かいテーマや内容を企画した。

地域連携の理論と実際

本講座は、平成23年に福祉心理学科の専門基礎科目として開講した。地域行政について、専門家から具体的に話を聞くことができる大変貴重な機会であるため、本学地域連携推進委員会で検討し、平成25年度からは総合基礎科目として、本学のすべての学生が受講しやすくなった。一方、選択科目であるため、履修人数の把握が、毎年の課題であった。昨年度の反省を基に、富士河口湖役場の関係部署と連絡を密にとり、受講者数の多少に対応できる計画を立てると同時に、必修科目が入りにくい時間帯での開講を本学教務担当者に依頼した。

学生のボランティア活動

昨年度の登録者は304名、ボランティア活動参加者は235名であった（平成26年10月1日時点）。今年度の登録者数は昨年とほぼ同じ（297名）であるが、ボランティア活動参加者は107名で、昨年の約半分となっている。昨年度末以来、専任のボランティアセンター職が空席となって、業務が教務学生課によって代行されている。学生に対してのボランティア活動の情報連絡は昨年同様に「ボランティアニュース」として、電子メールで配信されているが、ボランティアセンターの窓口業務時間が短くなっている。この窓口業務の短縮がボランティア活動参加者の減少に関係しているのかもしれない。

富士河口湖ボランティアネットワーク協議会

連携事業の多くがこの協議会において計画されてきた。月に1度定例的に開催されるため、構成員同士の連絡も密に行え、各事業への迅速な対応も可能な体制となっている。本協議会の活動は、年度初頭に開催される「拡大地域連携推進委員会」で大学や町役場の代表に伝えられている。

〈参考文献〉

地域連携推進委員会 石黒友康 他：富士河口湖町との地域包括連携における大学の役割、健康科学大学紀要 Vol. 7, 35-49, 2011.

地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成23年度）健康科学大学紀要 Vol. 8, 129-138, 2012.

地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について（平成24年

健康科学大学紀要 第12号 (2016)

度) 健康科学大学紀要 Vol. 9, 105-112, 2013.

地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について (平成25年

度) 健康科学大学紀要 Vol. 10, 119-126, 2014.

地域連携推進委員会 坂本宏史 他：健康科学大学と富士河口湖町との地域連携活動について (平成26年

度) 健康科学大学紀要 Vol. 11, 183-190, 2015.

Abstract

This study reviews the collaborative activities of the Health Science University and the town of Fujikawaguchiko, conducted in 2015. It also evaluates the success of the goals set by the Agreement on Community Collaboration. With regard to the Co-ownership of Intellectual Property clause listed in the agreement, the university professors organized lectures for the community members on November 15, 2015, and March 12, 2016, as a part of the town's festival. Meanwhile, governmental officials in the community gave lectures for the university students in their first semester. The university students were actively involved in local volunteer activities such as Health Science University Walk Cleaning Troops, held on May 24 and October 24, 2015.

Key words : community collaboration

agreement on community collaboration

volunteer center

co-ownership of intellectual property